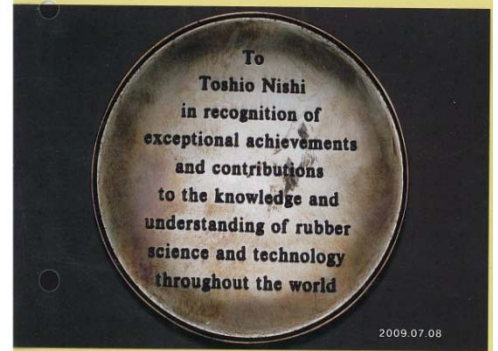


西敏夫教授が国際ゴム技術会議機構 (IRCO) からIRCOメダル受賞



国際ゴム技術会議機構 (International Rubber Conference Organization, IRCO) は、西敏夫教授にIRCOメダルを授与した。メダルの表には“国際ゴム技術会議機構から授与”、裏には“ゴム科学と技術の知識と理解に対する全世界を通じた並はずれた業績と貢献を認めて西敏夫に送る”と刻印されていた。授与式は、2009年6月29日、ドイツのニュルンベルグにある国際会議センター、「パリの間」で国際ゴム技術会議 (IRC) 2009ニュルンベルグの開会式で行われた。メダルの授与の前に、オランダ、トゥエンテ大学のノーダーメーア教授による業績説明があり、その後ドイツゴム学会 (Deutsche Kautschuk Gesellschaft (DKG)) 会長のトーマス・バルタ博士から西教授にメダルが授与された。

詳しくは次ページをご覧ください。

IRC0メダルは1年に1回またはそれ以下に授与されるが、西教授の受賞は、日本人または東洋人としては2人目の受賞である。1998年のIRC1998パリで山崎 升東京工業大学名誉教授が受賞して以来11年ぶりである。メダル受賞候補者は、外国からの推薦が必須で、西教授は今回オランダの推薦による。

授賞式の説明で、ノーダーメーア教授は、西教授が、200篇以上の原著論文、100篇以上の総説、80以上の本（多くは共著）、90回以上の国際会議での招待講演をポリマーアロイ、ブレンド、複合材料、エラストマー材料の構造と物性、ポリマーナノテクノロジーに関して行ったとした。また、1993年のIRC1993オランダ、USA以来IRC運営委員会の日本代表委員を務め、日本で開催されたIRC1995神戸のプログラム委員長、IRC2005横浜の組織委員長を務め両大会は、大勢の参加者と大規模な展示で大成功であった。特に、IRC1995は、神戸大震災の半年後に行われ大変であったが、西教授は、当時日本ゴム協会会長兼プログラム委員長として会議を成功に導いた功績は大きい。彼は、1995年から1997年まで日本ゴム協会会長、2000年から2002年まで日本の高分子学会副会長、2002年から2004年まで日本レオロジー学会副会長を務め当該分野の発展に貢献した。さらにISO/TC45/SC4/WG9免震ゴムの議長を2000年から務めているのは重要で、建物や橋梁を地震から守るものである。最近、彼は、日本学術会議の連携委員にも指名されている。

西教授による記念講演は、7月1日に「パリの間」で300名以上で立ち見席が出るほどの聴衆を相手に行われた。演題は、「エラストマーのナノからメガテクノロジーへ」で、WPI-AIMRの中嶋 健准教授、陣内浩司連携教授との連名で行われた。講演は、先ず3次元電子顕微鏡やナノ力学物性マッピングなど彼のグループで開発された高分子ナノテクノロジーのエラストマー材料への応用から始まり、免震用積層ゴムの実際の適用例、それに関する基礎研究と高分子ナノテクノロジーについてであった。講演は高く評価され、少なくとも3つのこれからの国際会議での招待講演（ドイツ、インド、インドネシア）を依頼された。

IRC0は、世界のゴム関連学会が集まった協会です。主要なゴムの国際会議日程を計画している。本部は、英国のロンドンにある材料学会にある。IRCは1938年にロンドンで開催され、現在は18カ国のゴム学会が加盟している。例えば、アメリカ化学会ゴム部会、ドイツゴム学会、日本ゴム協会などが加盟している。IRCでは学術発表と大規模な展示が要求され、毎年世界のどこかで1回しか開催されない。IRCの重要性、人気のためすでに2018年まで開催国が決まっている。今回は、22カ国から口頭発表84件、ポスター発表51件が集まり、参加者は、650名以上であった。論文は、大学からだけでなく、ミシュラン、ブリヂストン、グッドイヤー、コンチネンタル、デュポン、チバ、フォルクスワーゲン、BMW、メルセデス・ベンツなどからの発表もあった。技術展示は、約10000平方メートルのスペースに23カ国から168件あり、参加者は、2700名以上であった。主な展示社は、キャボット、エヴォニック・デグッサ、エクソン・モービル、ランクセス、ポリメリ・ヨーロッパ、ソルベール・ソラクシス、ゼオン・ヨーロッパなどであった。詳細は、www.irc2009.de や<http://www.internationalrubberconference.org/society.html> など参照。